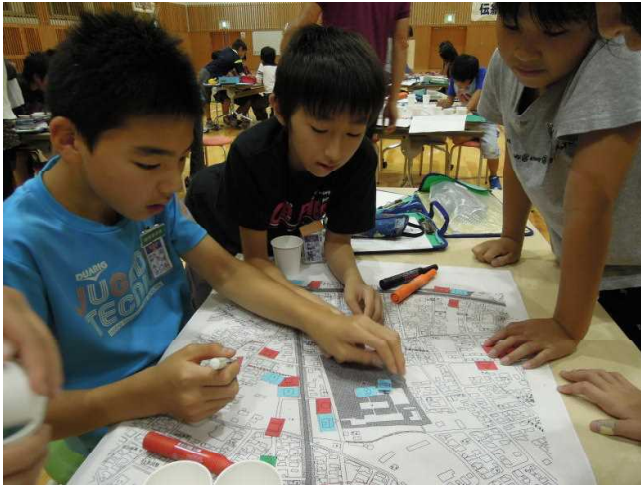


1 実践の概要

テーマ	能代で起きた過去の地震とその被害，わたしたちのまちの防災マップづくり
外部指導者	秋田大学地域創生センター 教授 水田敏彦 氏
実施日時	9月18日（水）10時25分から12時00分まで
実施場所	能代市立第四小学校体育館
参加者	5年生児童90名，職員5名

2 実践内容

次第・講義内容等	時間 (分)	準備・留意事項等
<p>1 校長あいさつ</p> <p>2 講話（プロジェクターを使用）</p> <p>○能代で起きた過去の地震について</p> <p>「元禄の大地震」から「日本海中部地震」までの4つの地震について分かりやすく解説。日本海中部地震では、津波に対する防災意識が大変低かったのに対して、元禄の大地震では津波デマが出たということから、当時の人の方が津波に対する意識が高かった話などを、児童は興味深げに聞く。</p>  <p>○地震や津波が起こるのはなぜ</p> <p>○防災マップ作成に当たって気を付けること</p> <p>防災マップ作りの意味として「防災マップを作ることで、自分（みんな）で地域の危険なところを見付け、地域の防災課題を考える！」ことや、実際に作ったものを基に「地域の人々に知ってもらおう」という情報発信の大切さについてお話しされた。</p> <p>3 防災マップの作成</p> <p>できるだけ異なる方向から通学する児童で、グループを構成し、学校周辺の様子を多角的に見られるようにし活動に取り組む。水田先生には、質問への回答や、助言をしていただいた。</p>	<p>5</p> <p>30</p> <p>40</p>	<p>○事前にメールで担当者や指導者と打合せを行い、留意事項について確認した。</p> <p>○事前に秋田大学の指導者のもとを本校担当者が尋ね、講話で児童に話していただきたい内容や、防災マップをつくる上で気を付けることについて打合せを行った。</p> <p>○夏休みの課題として一人一人に、防災マップ作りに取り組みませ、作成の手順として、次のことを示した。</p> <p>①自分の家から学校までの地図をつくる。</p> <p>②自分の家と学校に、印を付ける。</p> <p>③地図をもって通学路を歩き、次のポイントの場所を探し、地図に書き込む。</p> <p>・地震が発生したときに危険なところ・避難できるところ・災害時役立つところ・公共施設</p> <p>※地図記号としてあるものは、そのまま利用した。それ以外のは、子どもたちと相談し、記号を決めた。</p> <p>④日本海中部地震のときに、今住んでいるところでどんなことがあったのかを聞き、そのことを地図の裏に書く。（今の場所に住んでいなかった人</p>



- 4 作成した防災マップの紹介
- 5 感想発表とお礼の言葉

- 1 5
- 5

は能代でどんなことがあったのかを聞いて書く。)

※当日は一人一人が作成した防災マップを持ち寄り、「学校周辺の防災マップ作り」に取り組む。

○防災マップ作りで準備したもの

- ・学校周辺の拡大した地図（グループの数分）
- ・防災マップ用地図記号を印刷したもの
- ・マジック
- ・移動用机
- ・いす

3 参加者の感想

児童生徒

- ・大学の先生の話聞いて、地震は恐ろしいものだ改めて実感しました。昔も地震で多くの方が亡くなっていたので、悲しい気持ちでいっぱいです。
- ・学校の周りにガラス張りの建物がたくさんあるということに気が付きました。マップを作って危険なところが改めて分かりました。もし地震が起きて学校に避難するときには、細くて、近くにブロック塀のある道があるので、安全な道を通るようにします。
- ・友達の防災マップの説明を聞いて、建物の上の方も注意するという意見が出ました。だから友達が言っていたように、建物の上にも注意します。
- ・防災マップを作って、地域には気を付けなければいけないところがたくさんあることに気が付きました。

4 成果と課題

成果

- 1 事前指導をし、夏休みの課題として自分たちで通学路の様子を調べてきたことで、身近な問題として考えることができた。
- 2 専門の先生からお話ししていただいたり、映像資料を使って説明していただいたりしたことにより、津波や地震に対する理解が深まった。
- 3 能代で起こった地震を中心にお話ししていただいたことにより、地震が身近に起こる災害であるという意識を高めることができた。
- 4 防災マップを作成することで、学校周辺にいるときに地震が起こった場合、どこに危険があるのか、どこに逃げればよいのか、また逃げる場合にはどこを通過して避難すればよいのか、などを考えるよい機会となった。
- 5 専門の先生のお話を聞いたこと、自分たちが調べてきたことを基に防災マップ作成に取り組んだこと、などを通して防災に対する意識が高まった。

課題

- 1 作成した防災マップを他学年の児童や地域の人に見せるという情報発信の活動を取り入れることにより、より効果的に活用できると考えられる。今回の活動ではこの視点が抜けていたので、この視点を入れた活動を考えていきたい。
- 2 「通学路別の安全マップ」や「それぞれの地域ごとの安全」など、活動のバリエーションを拡げて取り組むもことも可能な素材である。このような活動も取り入れながら、児童の防災意識を一層高めていきたい。